

令和7年度 【ダイジェスト版】
全国学力・学習状況調査における香美町の調査結果のまとめ（概要）

香美町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり学校における教育活動の一側面である。

2 本町の状況

(1) <教科に関する調査の状況>

① 小学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)*1との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度*2	同程度
算数	同程度	同程度
理科	同程度	同程度

*1 全国(公立)、兵庫県(公立)とは、参加した国私立学校のうち、公立学校を対象としていることを示す。

*2 「同程度」とは全国、兵庫県との比較で平均正答率の±5ポイント範囲内を示す。

*3 「下回る」とは-5ポイント以下を示す。

(2) 実施期日

・令和7年4月14日～4月17日

(3) 調査実施校数及び人数

・小学校6年生：(8校、107人)

・中学校3年生：(3校、115人)

(4) 調査内容

① 教科に関する調査

[国語、算数・数学、理科(中学校CBT)]

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

*オンライン方式

② 中学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度	同程度
数学	下回る*3	下回る
理科	同程度	同程度

(2) <教科ごとの状況> ○良好と考えられる項目

【国語】

小学校

- 学年別漢字配当表の漢字を正しく使うこと。
- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること。

▼ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど必要な情報を見付けること。

【算数】

- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること。
- 異分母の分数の加法の計算をすること。

▼ 数直線上で、1の目盛りに着目し分数を単位分数の幾つ分かで捉えること。

【理科】

- ヘチマの花のつくりや受粉についての知識。
- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識。

▼ 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識。

▼課題と考えられる項目（一部抜粋）

【国語】

中学校

- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること。
- 表現の効果について根拠を明確にして考えること。

▼ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。

▼ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。

【数学】

- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること。
- 素数の意味の理解。

▼ 素数の意味の理解。

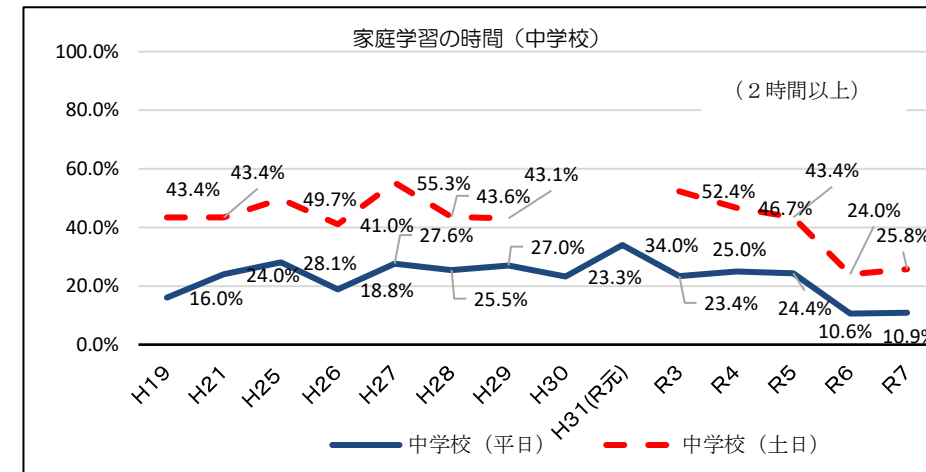
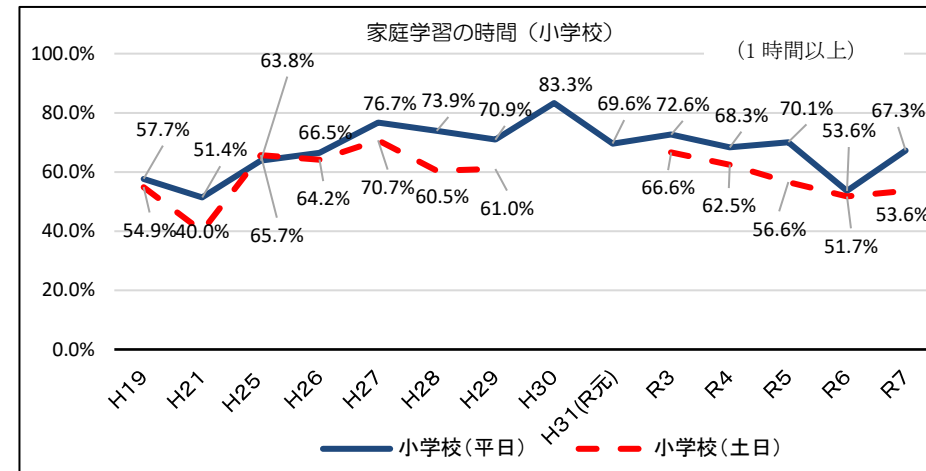
【理科】

- 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能。
- 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能。

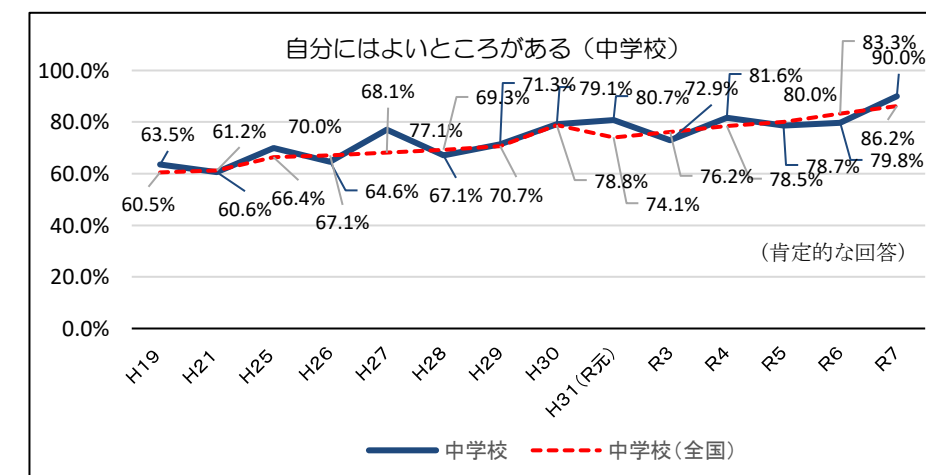
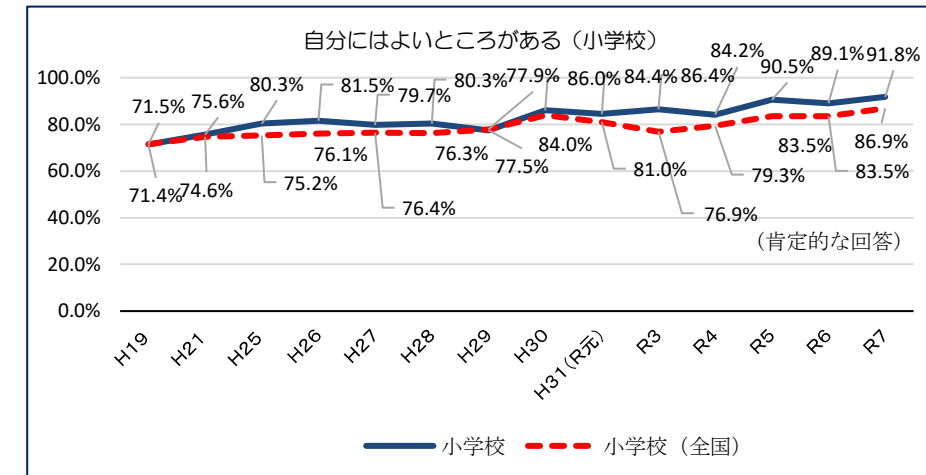
▼ 音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること。

(3) <児童生徒質問に関する調査の状況>（一部抜粋）

① 【家庭学習について】



② 【自己有用感について】



○ 減少傾向であった児童の家庭学習時間が平日・土日とも増加し、特に平日1時間以上学習している児童は、60%台となった。

○ 生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している割合は、昨年度と同程度であり、20%台である。また、土日に2時間以上学習している生徒も10%台である。

○ テレビゲームの時間やSNS/動画視聴の時間の見直しのため「家庭学習のきまり」による啓発など、家庭学習の習慣化のため校区内の小学校・中学校と家庭が連携して取り組むことが必要である。

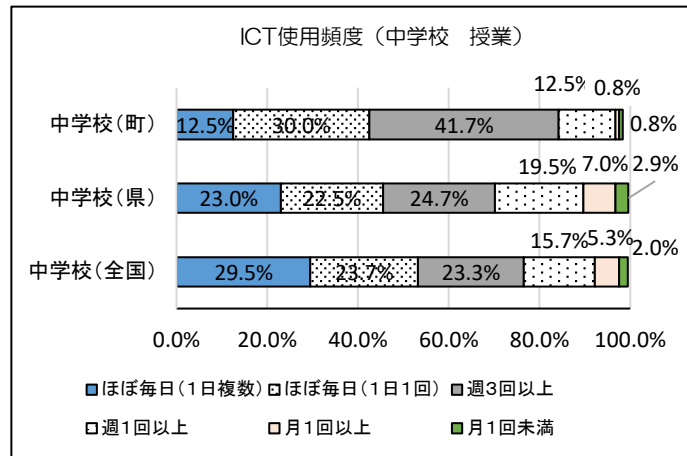
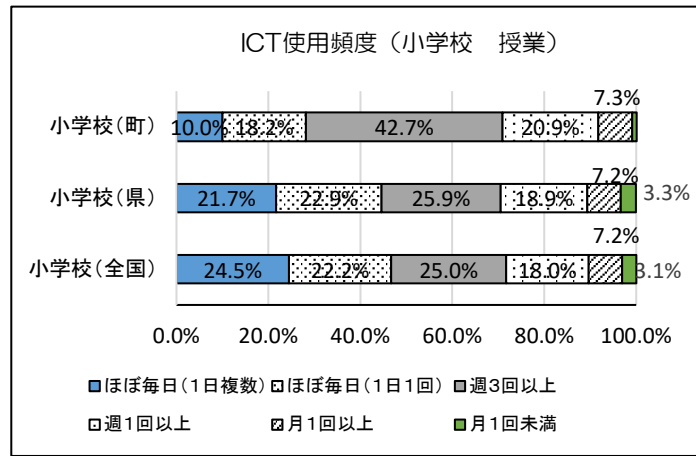
○ 児童・生徒とも自己有用感を抱いている割合は90%以上であり、全国と比較して高い。

○ 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。

○ 家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。

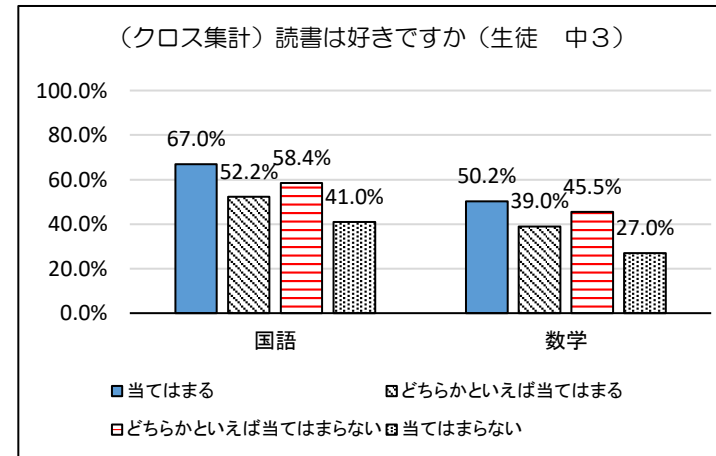
○ 幼児期の「ほめる」「認める」指導を徹底し、その成長を保護者と共有することで自尊感情を育てる。

(4) <PC・タブレットなどのICT機器の活用等> (一部抜粋)



[分析及び考察]

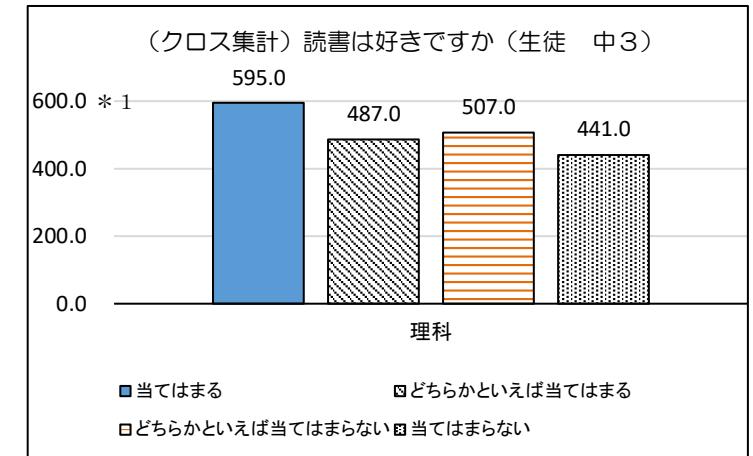
- 授業でのPC・タブレットの活用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
- 今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、PC・タブレットの効果的な活用の研修と実践を積むことが求められる。



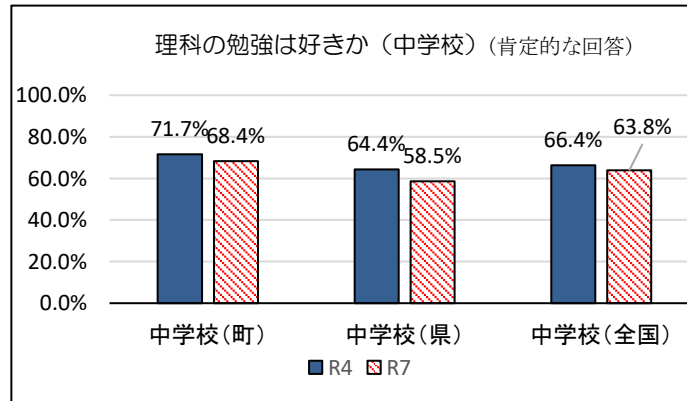
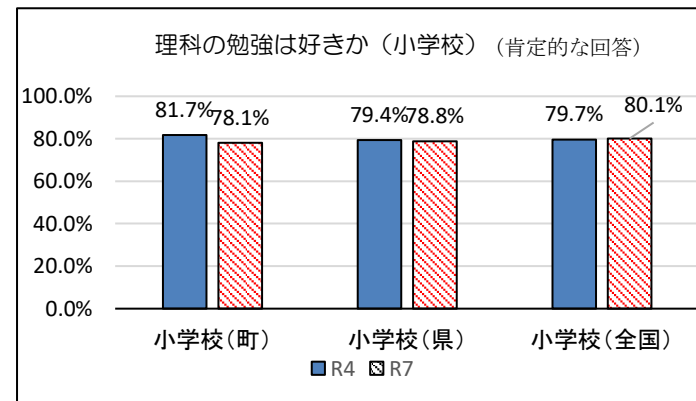
[分析及び考察]

- 児童・生徒とも「読書は好きですか」と国語、算数・数学、理科の平均正答率との間に相関関係が見られる。特に児童については、その傾向が顕著である。

*1 理科はIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表す。



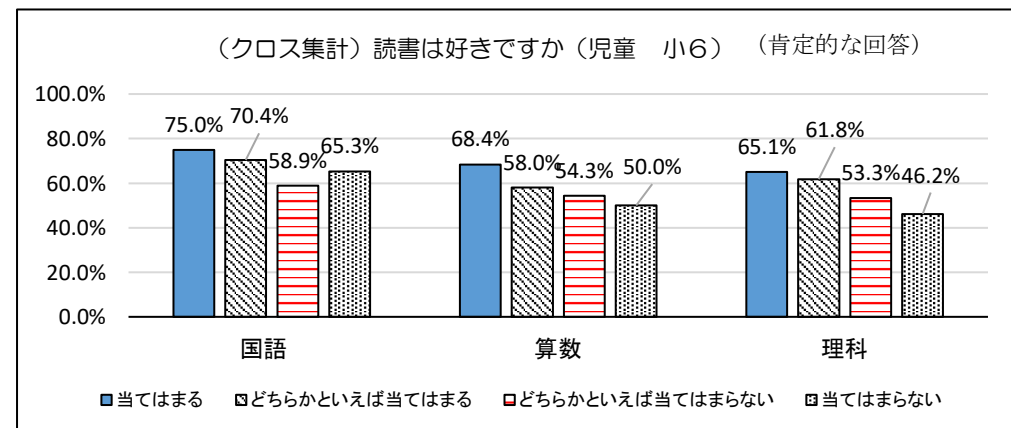
(5) <理科に関する状況> (一部抜粋)



[分析及び考察]

- 「理科の勉強は好きか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、香美町は県と比較すると同程度であり、この傾向は前回調査と同様である。生徒は県より少し高く。全国と同程度であるが、前回調査より低下している。

(6) <児童生徒質問と学力のクロス分析から> (一部抜粋)



3 今後の取組の方向性について

学校では ①魅力ある授業づくりで学びに向かう力を！

- <実践のポイント>
- 国語科を要しつつ、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
 - 「めあて」「学習課題」「学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
 - 学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」「読む活動」「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
 - タブレットでの学習支援ソフトの効果的な活用を図り、個別最適な学びを推進する。
 - 体験的に学ぶ活動を積極的に取り入れる。
 - 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。

②指導力を高め合う組織づくりと連続性のある学びを！
<実践のポイント>

- 教職員が学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを図る。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成・実践し、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

③小規模校ならではの特色を生かした取組を！

- <実践のポイント> (学校間スーパー連携チャレンジプラン)
- 事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からの学びも自らの授業改善に生かす。
 - これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
 - これまで蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での情報交換や協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

家庭、地域では 学校、家庭、地域の一層の連携を！

- <実践のポイント>
- 規律ある生活(早寝、早起き、朝ごはん等)、家庭内での対話の習慣化
 - 家庭学習の習慣化(「ながら勉強ゼロ」など)
 - 家庭で読書等に親しむ環境づくり(「親子で読書」などの習慣化など)
 - スマートフォン・タブレットなど情報通信機器利用のルールづくり
 - 努力すること最後までやり抜くことの大切さを伝える。
 - 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
 - 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
 - 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

行政では 学校・家庭・地域への支援を！

- <実践のポイント>
- 各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
 - 町ホームページ、町広報誌などによる情報提供
 - 各種事業の実施(ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、「町じゅう図書館」活動など)
 - 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等

